

めだかの学校だより

平成 23 年 8 月 1 日
第 73 号

学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：静岡県磐田市
家田 529-20
TEL0539-62-6691

校長訓話

第七十三回 校長 鈴木 正士

「我市を美しく、それにはまず我が家、我地域から！」
「完璧を求めるな、粗末でもいい、後始末だけは怠るな！」

これは私のメールの署名欄に載せているメッセージです。

こんなメッセージ皆さんにお送り自分の重いケツをたたいています。

私の住んでいるところは磐田市大平、磐田市の最北端、旧豊岡村の東北部で過疎化が進んでいる地域です。

半世紀前、私が小学校三年生の頃にはまだ東小学校に大平分校があり、同級生だけで十九人おりました。それが今、東小学校全体で四十二人、旧大平分校の管内では小学生が一人だけです。

少子高齢化が進み、もう私の地域の方だけでは山や茶園の管理等ができません。

ないとこのままで来ています。あと十年もしたらどうなるのかとても心配です。

毎年、猫の手クラブの皆様や A C A P (消費者関連専門家会議)、フォリデーフォレストアーツ、(株)ボッカコーポレーション、三遠南信地域リーダーの皆様が私の地域の山の草刈や間伐、竹伐り、桜の植樹個所の下刈、それに茶園の管理などの助っ人に来てくれます。もちろんこの中にはメダカの方皆さんも沢山おられます。

いまこのような助っ人の皆様のお陰で、私の地域の景観が守られていると云っても過言ではありません。ありがたいことです。

これらの活動はみな同じような意思を持った人達の人と人とのつながりです。

そして同じ意思を持っている人たちはどこかでつながっています。これがネットワークです。こうしたネットワークを維持していくのに、メダカの方

学校はとても大切な集まりです。それを支えてくれているバラさんには感謝です。

私にとってはメダカの学校にしても猫の手クラブにしても、自分が困ったときにいつも助けてくれる魔法の杖のようなものです。これらの皆さんのお陰で自分ではできないこともできるという自信につながっています。これからはこの様な活動がとても大切になってきます。今回のメダカの学校では地域づくり、仲間づくりについて、みんなで熱い話し合いができたと思っています。

それから「完璧を求めるな、粗末でもいい、後始末だけは怠るな！」については、当日少しだけ触れてみたいと思っと思っています。よろしくお願いします。



めだかの学校伝言板

——第 73 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／鈴木正士

教頭／水村春江

用務員／森茂光

給食係／大久保陽・鈴木祐之・野嶋一男・山崎敏明

加藤ひとみ・西川裕子・水野忠義・村田徳治

間瀬亮太・鈴木正士・大谷香代子・渡辺三ツ子

(チーフ)

<学舎> 静岡県浜松市北区引佐町東久留女木観音山

みどりの郷キャンプ場 TEL なし

開校日／平成 23 年 9 月 2 日 (金) 6:20 PMより——

受付／寺田幸宏・星野直樹・山本洋実・大場敬子
齊藤昭 (後見人)

<時間割> 今回のテーマ

「地域づくりとは、仲間づくりとは、絆とは」

● 19 期特別授業

～全員参加型討論会～

・司会 水村春江・進行 鈴木正士

・発言者 鈴木武史 池谷俊裕 榊原淑友

3者 5分づつ 以降は、

司会進行役のリードで自由討論

● 給食 秋の旬菜とマツタケごはん～

10:15 閉校

泳ぎ回るめだかたち

■海を渡った発明王の足跡を求めて

めだかの学校の授業で私が取り上げた明治時代の発明王「鈴木藤三郎」の足跡を探して平成23年6月9日、12日を台湾を訪れた。

藤三郎翁は、1855年(安政二年)静岡県森町で生まれ、水砂糖の製法を確立し、日本製糖株式会社を設立し、砂糖の国産化を進め、その後、初代台湾製糖株式会社社長として活躍している。彼は、二宮尊徳の教え「報徳」に出会い、日光にある報徳二宮神社に2500冊の「報徳全書」を寄贈し、「報徳の教え」を後世に残した。また、「報徳の教え」を実業に応用し、自ら産業を切り開き、生涯を通じての発明は159件に及び、塩、醤油、乾燥機などの近代産業の基礎を作っているが、晩年、不遇な時代を経験し、彼の真の業績は余り知られていない。

私たちが訪問した台湾製糖は台湾国際空港から新幹線で高雄・左営駅から地下鉄で7つ目の駅「橋仔頭」と言つたところにある。駅からすぐのところ台湾製糖はあり、工場は既に創業終了しているが、工場建物や社宅などが当時のまま残されている。そして、藤三郎が作った4体の観音様のうちの1体が残されている。森町にもこの妹に当たる観音様が森小学校北側の庵山公園にある。台湾の観音様は黒銅聖観音と呼ばれ、台湾の観音様は台湾の人の手によって100年という歴史を乗り越え今も大切にされており、台座の裏には「明治三十五年八月十八日社長鈴木藤三郎建立」の文字を見たとき、私は思わず目頭を熱くした。資料館に入ると入り口に4人の日本人の写真があり、5千円札の新渡戸稲造らと

もに「藤三郎翁」がそこにいた。私たちの歴史を旅した出来事は、地元台湾の「自由時報」という新聞に大きく掲載された。国境を越えた旅は、歴史を遡る貴重な旅となった。(村松達雄メダカ)

■みんなで行く、今から貯金して「第30回地域づくり団体全国研修交流会鳥取県大会」

地域づくり団体全国研修会鳥取県大会「日本一小さな県から大きく発進」集い・語り・紡ぐが、来年(24年)9月29日(土)〜30日(日)まで、倉吉市の鳥取県立倉吉未来中心を主会場に、県内11会場で分科会が行われる。前夜祭は9月28日(金)。

鳥取市分科会は、梨・和紙・星・話・石の地域の宝「五し」を生かした交流・グリーンツーリズム。境港市分科会は、豊富な海の幸と「水木しげるロード」で、139体の妖怪像がお迎え。倉吉市分科会は「打吹玉川」白壁土蔵群と、「白金の湯」の現存する古くからの町並みが楽しめる。三朝町の高濃度のラドンを含む世界屈指の放射能泉。大山町の名峰「国立公園大山」。智頭町の鳥取砂丘を育む源流の「森セラピー」。大國主命が落命した赤猪岩神話、オオサンショウウオなど自然と歴史の詰まった鳥取県へ。一年かけて貯金してマイクロボス借りてみんなで行くぞ!!なんてどう?

めだかの学校も9月で20年。これも縁かも。全国の仲間と会える、また楽しからずや。

■第9回全国まちづくり交流会 in 信州・木曾開田高原「木曾の味」

23年9月9日(金)〜11日(日)、長野県木曾郡木曾町開田高原で、全国まちづくり

交流会が開かれる。9月9日(金)18時〜前夜祭、10日(土)8時30分〜町内視察、13時30分〜開会式、13時40分〜基調講演。「市場」モデルから「むら」モデルへの転換が地域を再生する。グローバル化と農山村地域再生としての直売所・農産物加工所。講師加藤光一先生(信州大学農学部教授)。15時からパネルディスカッション。雑穀料理「野のもの」吉田由季子、みたけグルメリーフ代表取締役社長松井淳一の三氏。まさに「グルメで行こう」。16時30分地震被災地の現状報告「三陸沿岸消えた町村」前宮城丸森町長 渡辺政巳氏。18時交流会、御岳明神温泉「やまゆり荘」。11日(日)自由解散。参加費11前夜祭3,000円、交流会5,000円、宿泊費6,500円〜7,000円。

申し込みは7月31日締め切っているが、めだかの学校は待つてもらっている。事務局榊原までご連絡を!至急に。053-622-6691(文同)

■遠州大念仏「蟬しぐれの盆」8月15日磐田市大平 獅子ヶ鼻公園下野外ステージ

遠州地方には、多くの大念仏踊りのグループが現存している。私の住む磐田市豊岡地区にも大平組など6つの大念仏組が初盆の家を回っている。とはいえ、時代の流れと共に、大念仏組を維持するのは難しく、毎年何組かが廃組している。そうした伝統芸能を少しでも止めることができればと、3年前から地元の自治会が主催し開催している。地元の鈴木正士メダカ、榊原幸雄メダカもスタッフとして参加している。

日時8月15日(月)午後5時から、磐田市大平 獅子ヶ鼻公園下野外ステージ。駐車場は、新平山工業団地。シャトルバス

で会場とを往復します。観劇は協賛金500円(護摩木代とうちわ)。地元の子ども念仏2つと、豊岡と浜北の大念仏5団体が上演する。ぜひお出かけを!。問い合わせは、豊岡東公民館053-9-622-6691。パラメダカが対応します。

■第8回浜名湖フオークジャンボ

第8回浜名湖フオークジャンボリーが9月10日(土)11日(日)の2日間、浜名湖ガーデンパーク屋外ステージで9時20分〜17時30分まで、60のアマチュア団体が出演して行われる。無料。どなたも参加できる大交流会もある。めだかの問い合わせは、中村明男メダカ、053-449-3566まで。

■みんなで作ろう「姫街道写真物語」写真の作品募

姫街道連絡協議会「姫街道未来塾」(会長上嶋裕志メダカ)では、姫街道の素朴な風情を写真集(小冊子)にまとめます。姫街道の風景や街道と人のかかわりの写真を12月5日まで募集しています。ふるって参加して下さい。問い合わせは053-527-1120清水理または上嶋裕志053-523-2958。

■古い街並みを照らす『森ほたる』

古い街並みを手作りのあんどんで照らす『森ほたる』。8月1日から15日まで森町で開催。住民が夕方から家の軒先にあんどんを出し、明りを灯す。5回目の今回は300世帯が参加。期間中各地区の特別スペースでは町内外の音楽愛好家らがミニイベントを行なう。15日間で延べ50団体が参加とか。亀澤進メダカや村松達雄メダカらが活躍。問い合わせは村松達雄メダカ。

●開校日を前に学舎をキレイに！
8月28日(日)午前8時から学舎の清掃をします。この時期、草木の成長が良く、学舎周辺は草がいつぱい。草刈り、枝打ち、調理場とトイレ掃除。清々しく開校するたに手を貸して下さい。お弁当持参で！

「人・ひと・ヒト」だより

●おめでどう！牧之原市の原崎小百合メダカ。婚約したんだって。お相手は、山登り大好きな10歳下の男性。モサと言うけど、イケメンですよ。結婚しても、仕事上は原崎姓。家庭では大塚小百合。新居は静岡市。ガンバレ高齢出産！エツ、羨ましくいって誰です。粗大ゴミもいもんですよ。●こちらもおめでどう！三重県の杉谷知也メダカ。8月1日入籍で10月23日結婚。町づくり団体交流会や、めだかの学校にも連れて行くと思ってる。だって。地域の中に力をつける必要だと。自主上映会を立ち上げ上映会を行った。次回は11月予定、と。

※このごろ「メダカ生」も春か。昨年は藤枝市の小嶋良之メダカ、静岡市の鈴木芳則メダカも結婚。未婚の諸君、縁はいつぱいありますぞ！

●磐田市の小野泰弘メダカ。磐田市の市議会議員に。2名しかいない小会派の議員が議長になるのは珍しいとか。やはりは人物本位だね。

●浜松市の国会議員の城内実メダカ。学校には本人は中々出席できないが秘書が毎回出席。郵政民営化に反対し自民党を離党。次回の衆議院選に無所属で出馬するが落選。前回の衆議院選で返り咲き。「信念の

人」と無所属を買っているが、何もできず。かつての自民党静岡7区の支部長を自民党から要請を受け受諾の方向。今の国会議員、なんとかして〜！頼むヨ。

●豊橋市の金子芳美メダカ。「川がなくても水がなくても、海水でも、どこでも泳げるメダカを生育してください」と。昨年立ち上げた視覚障害施設を成功させ、建物張り屋さんなのに夜道が恐いので通学できな、だって。

●静岡市清水区の花井孝メダカ。めだか生が医者世話にならず社会貢献のできる体力と知力を持ち、世間から年寄り扱いをされないこと。まさに高齢化が進む「めだかの学校」にびつたり提言、感謝。肝に銘じて。

●磐田市の原邦司メダカ。自らの人間力を高め、真の幸福と楽しさを追求し、夢・希望を後世に伝えたい、と。相変わらず意気は盛ん。実践が大事とは影の声。頑張れ原ちゃん。

●名古屋市の山根圭三メダカ。守山文化小劇場の開館周年記念公演で発表された『歌芝居』で少年役と爺さん役の二役で出演。2日間で4回公演。大入り祝儀もいたたい。『花エキヤ』の歌をみなさんと一緒に歌いたい、と。

●静岡県の人づくり百人委員に、浜松市の石野省三メダカと森町の榊原淑友メダカが。まさに社会教育にびつたり2人。昨年度は、森町の田邊哲メダカが名前を運ねていました。

●浜松市の蜂須賀千賀子メダカ。60歳になって荷を軽くしなければと断捨離をはじめた、と。毎月一回フリーマーケットも長く続けている。蛸塚の「うなぎのかんたろう」のおかみさん。加藤ひとみさんが72回の校長にびつくり。彼女のパワーが大好

きたって。

●浜松市天竜区の本島慎一郎・真弓メダカ。磐田市大平の鈴木正士メダカの隣家で放置されかねない茶畑を仲間たちと助つ人に。茶摘期には掛川市の深谷孝メダカや森町の服部守孝メダカらとお茶生産。6月には茶畑の手入れ、と。山間地の限界。待つたなし。

●袋井市の山中幸子メダカ。磐田市の竜洋公民館で頼まれて「ハーブ講座」の講師に。大好評だって。

●浜松市の藤田吉恭メダカ。木工家具と細工の店「和の森」が6月2日に5周年を迎えた。少なからずも仕事がある今現在に感謝ですと。

●磐田市の村田徳治メダカ。遠州地方のよろず情報、「遠州こだわりネットワーク」を主宰。あっちこっちへ顔をだしてインターネットで全国へ発信。豊岡東公民館の強い応援団です。

●浜松市の北島多江子メダカ。6月26日に磐田市敷地の豊岡東公民館で開かれた「あじさいコンサート」に朗読の友人の応援に。なんとシンガーソングライターの西川裕子メダカと薔薇の匂坂玲子メダカと高松時代の同級生だって。いやはやなんと世間は狭い。この時のピアノリストは鈴木千緒さん、石野省三メダカの教え子。

●磐田市の川島安一メダカ。9月上旬にロシアへ静岡茶の売り込みに。『シズオカグリーンティ』『富士山緑茶』の名は、富士山静岡空港の名前と共に広げたいね。富士山静岡空港の社長は吉岡徹郎元メダカ生。【新人生紹介】

●浜松市の山本洋美メダカ。木村智子メダカの紹介で入校。人生占いの相談のおばさん。おばさんおじさんの小劇団をやってみたいだって。本職は庭師です。
●磐田市の寺田幸宏メダカ。パラメダカの

紹介で入校。33歳の時養蜂の基礎を覚え、以来40年間、世界を飛び回りつつ趣味の養蜂と生態を研究。ミツバチとハチミツのこととなったら止まらない。病氣治療にミツバチの働きを関係させたアピセラピーの研究も。元は中学の校長先生。

もつと紹介したいが今回はこれまで。

《めだか春秋》

66年前の8月6日午前8時15分、広島に原子爆弾(リトルボーイ)が投下され、多くの人が亡くなされた。そして9日には長崎に。今まだ多くの人が苦しんでいる。8月6日から8月14日まで、磐田市立豊岡東公民館で『原爆と人間展』がロビーで開かれている。『墓には何もねえ』、敏にもみくちやにされたかのような彫りの深いおばあさんの1枚のモノクロ写真。地獄絵のような30枚枚ほどの写真や絵のある中で、なぜか私の心を離さない写真。66年前の幼かった日、静岡市の安倍川の土手、火の粉の舞い狂う中に、何も分からずただぼう然としていた頃の状況が脳裡に蘇り、私のおばあちゃんとダブって映ったのかも知れない。

『原爆と人間展』に合わせて、地元の数地ホタルの会の人々が、小麦粉だけの『ともこお汁粉』と『芋ぞうすい』をふるまってくれた。私は子どもたちを前に、『広島のパ力』の絵本の読み聞かせをした。胸がつまり文字もかすんで声も湿りがち。広島に投下された原子爆弾の放射能、現在進行形の福島第一原子力発電所から派生したヨウ素やセシウム、ストロンチウム、プルトニウムなどの放射能。読み聞かせにからめながら話をしました。

遠くに去りつつあると思っていた66年前の記憶が、この『原爆と人間展』を通して蘇ってきました。(榊原幸雄メダカ)

トピックス

■杉や松の木肌はしっとりりとほんとはキレイ！ 磐田市大平の山林で「きらめき間伐」

磐田市の豊岡東公民館では、7月30日（土）午前9時から午後2時半まで、「山と水と水中生物探検」講座を、磐田市大平の鈴木正士メダカ所有の山林で、一般募集の親子と、「しきじ土曜倶楽部」の子どもたちなど、70余人が参加して行なった。ときめき間伐の講師は内田貴久メダカ。山林のことは鈴木正士メダカ。立ち木のまま木の皮をはいで自然乾燥させる『ときめき間伐』。杉や松の根元に丸くノコギリを入れ、竹ペラで握りやすくしたあと、下から上へ皮をむく。斜面で皮がむきにくく苦労する子や、中には16、7mも上まで皮をむく子も。皮がむけた木肌はしっとりりとほんとはキレイ。さわったり、なめたり、顔に塗ったりと子供たちは興味しんしん。しきじ土曜倶楽部のお手伝いの学生もびっくり。10数本皮むき間伐したあと、山にお礼を言って公民館へ。午後は公民館横の敷地川に入ってハヤやヨシノボリ、ドジョウ、ヤゴなどの水中生物をつかまえて観察。先生は袋井市の水土里ネットの永島さん。館長さんからは山林のもつ自然のダム湖の役割や川に



棲む魚や虫たちで水質検査ができることなどを教った。「蛙の指は何本あるのか」「蛙はオスが鳴くのか・メスがなくなるのか」などクイズも楽しんだ。（ハラメダカ）

■事務局だより

残暑お見舞い申し上げます。今年の夏は本当におかしいですね。これでは元気の人も体をこわしそう。東日本の被災地の人たちのことも気にかかると。せめて自分のことで支援していこうと。

さて第72回のめだかの学校は6月3日。校長加藤ひとみ、教頭村田徳治、用務員熊谷純子。72回は3月11日の東日本大震災があつたあとのことでもあり、一時限1時間の特別授業 自然科学「今、私たちに出来ることは」、元県中部地域防災センター所長の松本芳廣先生が地震のメカニズムである海洋プレートと大陸プレートとの関係など資料をもつて説明。プレートの攻めぎあいや地震のメカニズム。日本列島周辺は4つのプレートが攻めぎあつていっていると言われ、歴史が示すように大きな地震や津波が周期的に起きています。東海沖地震も叫ばれて久しいが、いつ起きてもおかしくない状況だと言います。そんな地盤の上に中部電力浜岡原発がある。今から心しておく必要がある。松本先生のボランティアで被災地に行つた生々しい状況を聞けば聞くほどに脱原発に心が動くのは無理もない。

つづいて加藤ひとみ校長の訓話。自分と成長していく娘さんとの関わりあいを母の心で話された。事務局からは第19期の申込みをはじめたこと、学舎の清掃してくれた人への感謝の気持ちを共有しようという名前を公表。お待ち兼ねの給食は、鈴木武史メダカの「おじゃがさん」。新入生の寺田幸宏メダカの蜂蜜も味わって満腹満腹。私語飲食全て禁止の次回3役発表。第73回

は1回目、校長鈴木正士、教頭木村智子、用務員森茂光、異色トリオ。木村教頭、所沢市在住で月初めに浜松にくる。ところが1数日後、「9月2日は東京で私が講師を勤めるガーデニング教室があり「めん」とのこと、教頭は校長と同期の水村春江メダカにお願いする。ベテラン2人と支えるは新人の森茂光用務員。頼みます。

第73回めだかの学校の職員会議を7月16日に磐田市の「とれたて元氣村 味里」で開く。鈴木校長、水村教頭、用務員の森メダカは地元祭りで欠席だったが開く。73回は19期の最初、特別授業となる。3月11日の東日本大震災のあと、人と人の助け合い、地域の絆が多くの生活を支え合っていることでもあり、19期の通年テーマを「地域づくり、仲間づくり、絆」と決める。今回は全員参加型の討論会としたのでテーマは「地域づくりとは、仲間づくりとは、絆とは」に。司会は水村春江教頭、進行は鈴木正士校長、鐘は森茂光用務員。はじめ鈴木武史、池谷俊裕、榊原淑友5分づつ発言、以降は司会進行役のリードで自由討論に。給食の時間は、各テーブルごと引き続いての自由おしゃべり討論会。給食は秋の旬菜とマツタケごはん。

■毎回遅れ気味の便りとお礼を！

「今回はちよつと早そうだね」と妻の明美さん。まとめ役の間瀬亮太メダカが8月10日、15日まで出張だつて。「こりや大変」と必死になつて書いています。伊藤英雄さん、本島慎一郎さん、鈴木武史さん、村松達雄さんありがとうございます。最後の詰めの間瀬亮太さんよろしくね。感謝！

■第19期の受け付けを始めています
第19期は23年9月1日、24年8月31

日までです。まだ継続手続きをしていない生徒は8月31日までに済ませてください。未手続きの生徒には再度申込書を同封します。継続手続きがなされない生徒は名簿からはずれ自主退学となります。ご注意を新しく入校希望の生徒がいましたら事務局までご連絡ください。資料と申込書をお送ります。

■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行日は平成23年11月1日、原稿の締切りは10月20日です。あなたの活動予定やイベント、活動実践など送ってください。郵便かFAXで。メールの方は、

《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》

間瀬亮太090・5009・0986です。
（メールの方は割付の関係もあるので「一報を」。

■めだかの学校の事務局

T438・0105静岡県磐田市家田52番地20 榊原幸雄方 TEL0539・62・6691（FAX同じ）
※学舎「みどりの郷」には電話はありません。連絡は事務局まで。携帯080・1612・9130

